



ふくおか【Good👍】農業人100
 主な農産物／バラ、米・麦・大豆

山口 憲さん (30歳)

(営農地／田川郡糸田町)

農業は自分次第で可能性が広がる

《就農のきっかけ》

農家を目指す仲間との出会い

実家が農家で農業を間近で見てきた山口さんにとって、「農業はきつい」というイメージがあり、当初は農業をしたいとは思っていませんでした。高校卒業後、関西の花市場で1年間研修し、親に勧められるままつば市にある旧(独)農業者大学校へ進学しました。

農業者大学校では、全国から農家の後継者や農業を志す人が集まっており、次第に就農に対する意欲が高まっていったそうです。農業者大学校を卒業後は海外農業研修制度を利用してアメリカ・オレゴン州の花き農家で2年間の研修を経験。ヘリコプターや大型コンバインを乗りこなすアメリカ型の大規模農業に驚きを覚えたそうです。その時に「負けたくない」と感じたことが就農への大きなきっかけとなったと言います。

《これまでの過程》

農業は自分のやり方次第で楽しくなる!

農業者大学校での仲間との出会いや海外研修を経て、農業のイメージが「自分のやり方次第で楽しくなるのでは」に変わっていった山口さん。25才の時に地元に戻って実家のバラ農家を手伝いはじめると、白バラを青色に染め上げて出荷するなど独自の販売手法も確立。農業はやり方次第で楽しくなることを実感したと言います。また、花を作るだけでなく市場関係者や花卸業との交流の場を広げて活発に情報交換し、アイデアをもらうなど試行錯誤しながら楽しくなる農業を心掛けています。

この他、田川地区農業青年クラブ連絡協議会(4Hクラブ※)の会長を2年間務め、現在はJA青壮年部の県連副委員長の役を受け持つなど、農業の大切さを一般の方に伝える活動も積極的に行っています。

※4Hクラブ…農村の青少年が地域社会において交流と親睦をはかりながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともにひろく生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループである。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の頭文字をとったもので、活動の目標を象徴している。



プロフィール

- 家族構成／父、母、本人
- 営農年数／約5年
- 従業員数／常雇1、その他3名
- 耕作(経営)面積／バラ(20a)、米(3.6ha)、麦(10ha)、大豆(3.6ha)
- 販路／市場

《これからの展望》

地域の若い力を活用していきたい

実家が農家であったため、土地やハウス、農業機械は既にあつたという恵まれた環境で就農できた山口さん。しかし「現在の農業基盤は親が作り上げたもの、これからは自分で作り上げていく必要がある。」と考えています。

現在糸田町には、山口さんと同年代の農業後継者が多く、地域の催しでも協力し合うなど関係も良好。山口さんは、「地域の若い力を活用して何かできれば」と考えているそうです。「農業を始めるには人との繋がりが重要。自分で積極的に出て行って、情報をもったり、地域との繋がりを深めていくことも大切な仕事です。」と話してくれました。



Good👍 成功のためのポイント

とにかく前向きであること、ポジティブに考えること。そして先のことを考えてチャレンジし続けることが大切。就農については様々な研修制度が準備されているのでそういった制度を利用して視野を広めるのも良いと思います。